

「Let's Write 1 留守番電話のメッセージへの返信 - メール -」①

育成を目指す資質・能力（本時(3/4時間目)のねらい）

【本時のねらい】録音された留守番電話のメッセージを聞いて、それに対する返信を英文でメールに書くことができる。

ICT活用のポイント

【授業の視点】留守番電話のメッセージに対して返信メールを書く場面において、タブレットを使ってメッセージをやり取りすることによって、より身近な題材として関心を持ち、自分の考えや立場を伝えようとする姿勢を持つであろう。

事例の概要

【つかむ】本文の留守番電話内容を聞き、それに対する返信メールの内容を理解する。

【追求する】それぞれが自分の留守番電話の内容を考え、タブレットを用いて録音する。

【追求する】友達からの留守番電話のメッセージを聞き、タブレットを用いてそれに対する返信メールを書く。

【まとめる】友達からの返信メールの内容を確認し、それに対するリアクションを返信する。

○本時の授業までに子供たちは、各自のタブレットを使って留守番電話のメッセージを録音し、本時ではお互いのメッセージを交換し合って、相手の留守番電話の内容に対する返信メールを作成しました。

＜実際の授業の様子＞

○ペアでの会話練習 ⇒ スモールトーク

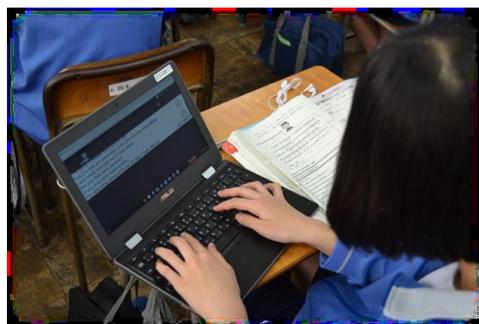
ほぼ毎時間、授業のはじめにペアでの会話練習を取り入れています。英語の授業への雰囲気づくりをするとともに、本時はその中のQ&Aをモデル文として用いたスモールトークを行い、本時の中心となる活動である、タブレットを使用した返信メール作成の説明内容につなげました。

○タブレットを使用してリスニング&ライティング

情報共有機能の録音機能を使い、各自が考えた内容(友達を誘う)で前時までに留守番電話のメッセージを録音⇒ペアで交換しました。イヤフォンを使用することにより、各自別々の内容を自分のペース、回数でリスニングすることができます。また、ワークシートや教科書のモデル文を参考にしながら、各自が内容に合った返信を打ち込みました。

【事例におけるICT活用の場面①】

タブレットで
リスニング



【事例におけるICT活用の場面②】

タブレットで
ライティング

【事例におけるICT活用の場面③】

電子黒板で互いの作品を共有



【活用したソフトや機能】 大型提示装置（電子黒板） ICT端末（情報共有機能使用）

【よかった点】

- ・タブレットを個別に使用することにより、レベル別での活動ができていた。
- ・各自がタブレットに文字を入力しているため、細かい部分までの指導が難しくスペルミス等が見られたが、お互いが自分で考えた内容に対する返信メールであったため、思いは伝わるものであった。

【よりよい授業に向けて】

○情報共有機能の文字入力では文字数に制限があるため、使用にはメリットとデメリットがある。ワークシートか、タブレットか、学習内容によって使い分けが大切になる。

○個別での作業となるため、見取りが難しいと感じる。また、どの程度できていけば良いかという到達目標の設定を明確にする必要がある。

○また、スモールトークでは即興的に行うために仕掛けを教師側で用意する必要があるが、本時では、前時までに使用していた文やメモが生かされていた。

・本時の授業では形成的評価として指導に生かす評価ができればよい。その点で、本時は何人かにしぼって全体での確認、評価ができると良かったのではないかと。

・今回のようなICTを活用した授業やパフォーマンステストのあり方、ペーパーテストの改善など、視点を変えた4技能での分析が今後は必要である。